

中信土木株式会社

環境経営レポート

(対象期間: 2023 年10月1日 ~ 2024 年9月30日)

作成日: 2024年12月27日

環境経営方針

〈基本理念〉当社は公共工事や民間工事において最高の技術を提供することで、住みやすい環境作りに貢献するとともに、深刻化している環境破壊について真摯に受け止め全社一丸となり地球環境の保全に積極的に取り組みます。

1. 事業活動に関わる法令等を遵守します。
2. 電気、化石燃料の使用を削減することで二酸化炭素排出量を削減します。
3. 廃棄物の削減や適正な処理をします。
4. 建設資材、事務用品などのグリーン購入を推進します。
5. 全社一丸となり活動方針に則って取り組みます。
6. 本活動内容を全従業員及び関係者に周知します。
7. 環境経営の継続的改善を誓約する。

制定日： 2020年2月28日
代表取締役 進藤 一平

経営理念

常に最新の知識・技術を貪欲に取り入れ、地域社会の革新指向・創造に挑戦し続ける事により、不可能を可能にし、社会の期待を超える価値を継続し続ける。

□組織の概要

(1) 名称及び代表者名

中信土木株式会社

代表取締役 進藤 一平

(2) 所在地

本社・土場 長野県松本市波田2016-1

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者 専務取締役 赤穂大樹 TEL : 0263-92-7785

(4) 事業内容

総合建設業(土木、とび・土工、石、舗装、管、鋼構造物、しゅんせつ、塗装、造園、水道、解体)

建設業許可(般-4)020280号

(5) 事業の規模

売上高 2.1 億円

主要工事件数 87 件

	2023	2022	2021	2020
従業員	8	10	9	7
延べ床面積	47.84	47.84	47.84	47.84

(6) 事業年度

(2022年度)令和4年10月～令和5年9月

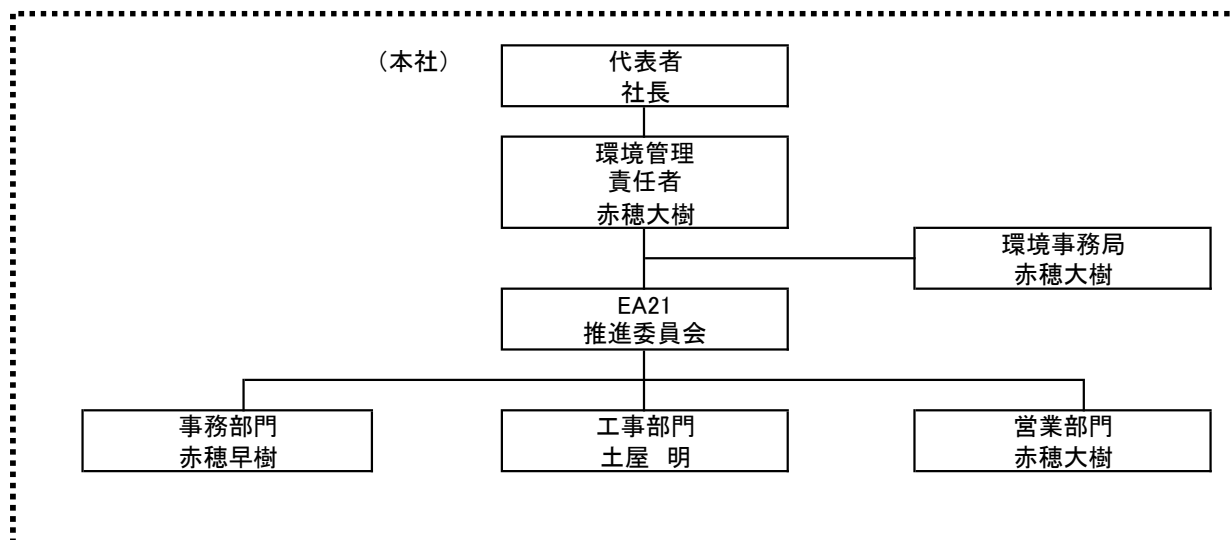
□認証・登録の対象組織・活動

対象範囲： 全組織・全活動が対象である

対象事業所： 本社・土場

活動： 総合建設業（土木、とび・土工、石、舗装、管、鋼構造物、しゅんせつ、塗装、造園、水道、解体）

□実施体制図及び役割・責任・権限表



役割・責任・権限	
代表者（社長）	・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備 ・環境管理責任者を任命 ・環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 ・環境目標・環境活動計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直しを実施 ・環境活動レポートの承認
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめ表を承認 ・環境目標・環境活動計画書を確認 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境活動レポートの確認
環境事務局	・環境管理責任者の補佐、EA21推進委員会の事務局 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 ・環境目標・環境活動計画書原案の作成 ・環境活動の実績集計 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境活動レポートの作成、公開（事務所に備付けと地域事務局への送付）
EA21推進委員会	・環境活動計画の審議 ・環境活動実績の確認・評価
部門長	・自部門における環境方針の周知 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 ・時部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施 ・自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成 ・試行・訓練を実施、記録の作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

□主な環境負荷の実績

廃棄物排出量		2021	2022	2023
一般廃棄物排出量	kg	32	28	26
産業廃棄物排出量	トン	100	413	197
食品再資源化率	%			
食品再資源化実施率	%			
総排水量	m ³	216	144	216

(C o 2 排出係数 中部電力、平成 2 7 年、0.486 k g - C O 2 / k W h)

□環境目標及びその実績

評価○・・・100%以上、△・・・90～99%、×・・・90%以下

売上 千円		2022年度	2023年度				
		235,424	253,251				
項 目	年 度	2022.10～ 2023.9	2023.10～2024.9		2024.10～ 2025.9	2025.10～ 2026.9	評価
		(基準年度)	(目標)	(実績)	(目標)	(目標)	
電力による二酸化炭素削減	kg-CO2 基準年比	3,909 2022年	3,870 99%	4,036 103%	3,831 98%	3,792 97%	×
売上高原単位	実績/売上	0.0166	0.0164 99%	0.0159 96%	0.0163 98%	0.0161 97%	○
自動車燃料による二酸化炭素削減	kg-CO2 基準年比	83,087 2022年	82,256 99%	248,771 299%	81,425 98%	80,594 97%	×
売上高原単位	実績/売上	0.3529	0.3494 99%	0.9823 278%	0.3459 98%	0.3423 97%	×
灯油による二酸化炭素削減	kg-CO2 基準年比	1,241 2022年	1,229 99%	1,660 134%	1,216 98%	1,204 97%	×
売上高原単位	実績/売上	0.0053	0.0052 99%	0.0066 124%	0.0052 98%	0.0051 97%	×
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO2	88,237	87,355	254,467	86,472	85,590	×
売上高原単位	実績/売上	0.375	0.371	1.005	0.367	0.364	×
一般廃棄物の削減	kg 基準年比	28 2022年	28 99%	26 93%	28 99%	28 99%	○
産業廃棄物の削減	t 基準年比	413 2022年	409 99%	197 48%	405 98%	401 97%	○
売上高原単位	実績/売上	0.0018	0.0017 99%	0.0008 44%	0.0017 98%	0.0017 97%	○
水道水の削減 (生成水)	ℓ 基準年比	144 2022年	144 100%	216 150%	144 100%	144 100%	×
グリーン購入の推進		チェックリストによる購入推進	チェックリストによる購入推進	チェックリストによる購入推進	チェックリストによる購入推進	チェックリストによる購入推進	×
製品への環境配慮		下記	下記	下記	下記	下記	△
・環境配慮型の工法を積極的に採用		再生材使用					
・IT化を促進し、省人化を推進		ICTを検討したが使用には至らなかった					

□環境活動計画及び取組結果とその評価

数値目標:○達成 ×未達成

◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

達成状況は売上高原単位を基準とする。

2023年度 期間2023/10/1～2024/9/30

取り組み計画	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
電力による二酸化炭素削減		
数値目標	○	電力の使用量は昨年比プラスとなったが、売上高原単位では減少となった。今期については下請け工事も多く、元請のように事務所で書類作業をすることが少なかったことが考えられる。しかし、節電等は意識していたので、今後も同じように削減できるよう意識していきたい。
・空調温度の適正化（冷房28℃ 暖房20℃）	◎	
・不要照明の消灯	◎	
・パソコン等の省電力設定	◎	
・パソコン等の不使用時電源オフ	◎	
・ブラインド・カーテン等による調節	◎	
自動車燃料による二酸化炭素削減		
数値目標	×	河川工事のポンプ常時使用により多くの軽油を使用した。その分を差し引けば例年通りの数字となってくる。こういった例外については控除できるように考えていってもいいかもしれないので、次年度以降検討する。
・アイドリングストップ	◎	
・無駄のない運転	◎	
・不必要な暖気の禁止	◎	
灯油による二酸化炭素削減		
数値目標	×	山の上の工事が始まったことにより4月でも暖房が必要になり若干灯油使用量が増えた。不必要な時には使用していないので、引き続き意識して抑制していく。
・不必要な時に使用を禁止	◎	
一般廃棄物の削減		
数値目標	○	前年度から変わらずに推移している。こちらについては大きく増えることもなければ減ることもないと思っているが、引き続き意識していきたい。
・一般廃棄物の排出量を把握	◎	
産業廃棄物の削減		
数値目標	○	昨年度より減少した。工事内容によるものと考えられる。
・作業ミスによる廃棄量の削減	◎	
水道水の削減		
数値目標	○	昨年度より減少した大幅に増えない限り特に気にする必要はないと考える。が、次年度以降も引き続き節約していきたい。
・飲料用以外の使用禁止	◎	
製品への環境配慮		
・環境配慮型の工法を積極的に採用	◎	昨年度導入の原価管理、安全管理、積算の「ソフト」を活用し省人化を推進できた。また再生材を積極的に使用し、環境配慮型の工法を採用できた。
・IT化を促進し、省人化を推進	◎	
社会貢献		
・草刈等	○	地域ボランティアに参加した。
・ごみ拾い	○	

□次年度の環境経営目標及び環境経営計画

電力による二酸化炭素削減			
2024年度目標	3, 995 kg-CO2	2023年度実績	4, 036
目標達成手段	・ 空調温度の適正化（冷房 2 8℃ 暖房 2 0℃） ・ 不要照明の消灯 ・ パソコン等の省電力設定 ・ パソコン等の不使用時電源オフ ・ ブラインド・カーテン等による調節		
自動車燃料による二酸化炭素削減			
2024年度目標	82, 256 kg-CO2	2023年度実績	248, 771
目標達成手段	・ アイドリングストップ ・ 効率的なルートで配送 昨年度は例外的な数字なので一昨年の数値目 ・ 無駄のない運転 ・ 不必要な暖気の禁止		
灯油による二酸化炭素削減			
2024年度目標	1, 643 kg-CO2	2023年度実績	1, 660
目標達成手段	・ 室温の管理		
一般廃棄物の削減			
2022年度目標	25. 74 kg	2022年度実績	26
目標達成手段	・ 一般廃棄物の排出量を把握理 ・ 裏紙の使用		
産業廃棄物の削減			
2022年度目標	195 t	2022年度実績	197
目標達成手段	・ 作業ミスによる廃棄量の削減 ・ 使用量の計算ミス削減		
水道水の削減			
2022年度目標	214 0	2022年度実績	2140
目標達成手段	・ 飲料用以外の使用禁止		
製品への環境配慮			
・ 環境配慮型の工法を積極的に採用 ・ IT化を促進し、省人化を推進			

□環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）	
法令	要求事項	評価
廃棄物処理法	産業廃棄物（金属くず、廃プラ、廃ガラス、廃油等）	○
建設リサイクル法	建設副産物	○
オフロード法	基準に適合した特定特殊車両	○
消防法（危険物）	シンナーの保管	○
道路交通法	使用車両について	○
騒音振動法	工事現場ごとの振動・騒音について	○

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。

なお、関係当局よりの違反、訴訟等の指摘は、過去3年間ありませんでした。

□代表者による全体の評価と見直し

取り組み状況達成状況

問題なし

本年度は燃料についての二酸化炭素排出量が昨年よりも大幅に増えてしまっている。これについては工事内容によるものなので仕方がない部分だと考えている。しかし、次年度以降も例外的にこのようなことが起こりうる可能性があることから、その工事部分だけ抜き出し控除することで昨年度との比較をしやすいようにしてほしい。その他いい方法がないか検討してほしい。

2024年12月27日

中信土木(株) 代表取締役 進藤 一平
中信土木(株) 専務取締役 赤穂 大樹